

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学及び難関私立大学（関関同立）述べ合格者の増加 ・センター試験にチャレンジする生徒数の増加 ・希望進路実現率（自己の第1希望）の向上 ・授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 ・ICT稼働率の向上
計画名	坂の上の輝く青春 ～進路実現に向けて～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>【中期的目標】</p> <p>1 学力・進学保障—生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る。</p> <p>（1）教志コース（教員養成系コース）を定着させる。 ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題の作成等を主体的に行うことにより、進学意欲やICT活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化を図る。</p> <p>（2）学力向上・進路目標実現のための3年計画（「北高スタンダード」）の活用を図る。 エ 授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入等）を推進し、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。</p> <p>【本年度の具体的な取組み計画】</p> <p>イ 電子黒板機能付きプロジェクターを活用するなどICTを活用した授業を実施することにより、思考力・判断力・表現力の向上につなげる。</p>
事業目標	<p>①ICT活用による授業の工夫・改善（ユニバーサルデザイン化、アクティブラーニングの導入）を強力に進め、「充実した質の高い、わかりやすい授業」「教員の授業力向上」につなげる。</p> <p>②生徒の主体的・協働的な学びを促し、本校生徒の課題（弱点）である思考力・判断力・表現力の伸長を図り、希望である進路の実現につなげる。</p> <p>③「教志コース」（専門コース）における外部講師の講義や生徒の実習報告会等に活用することで、「教志コース」の充実を図り、先生になりたいという進路希望の実現につなげる。</p>
整備した 設備・物品(数量)	2・3生HR教室に電子黒板プロジェクタ（17台）・・・無線LANアダプタ、ケーブル収納ボックスを含む なお、1年生については上記設備を導入済みであり、教育効果を高めている状況である。
取組みの 主担・実施者	主担：授業改革PT（教頭・首席・教務主任・ICT委員長ほか） 実施者：全教員
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改革PT（教頭・首席・教務主任・ICT委員長ほか）を立ち上げ、年間の取組み計画等策定（5月） ・高槻市の中学校を含めた実践校の視察及び校内でICT活用を実践している教諭の授業見学（5月～7月） ・教員相互の授業見学（6月・10月） ・ICT活用した実践事例をもとに職員研修実施（1月） ・授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証し、PT及び各教科による次年度の計画案検討（2月）
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学及び関関同立延べ合格者数100名以上（H27年実績100名）（H28年実績145名） ・センター試験にチャレンジする生徒数150名以上（H27年実績149名）（H28年実績216名） ・第1希望の進路目標を達成できた生徒の割合80%以上（H27年83%）（H28年83.6%） ・授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」の項目の平均値を3.1以上 ・授業アンケートで「授業を受けて、知識や技能が身についた」の各項目の平均値を3.1以上（H27年3.11）（H28年3.05） ・学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を80%以上（H27年79%）（H28年78.6%） ・教員のICT活用者を全教員の60%以上（事前調査でH27に一度でも活用したことがあると答えた教員は58%）（H28年58.5%）
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学及び関関同立延べ合格者数100名以上(◎)（H29年138名） ・センター試験にチャレンジする生徒数150名以上(◎)（H29年234名） ・第1希望の進路目標を達成できた生徒の割合80%以上(△)（H29年75.4%） ・授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」 3.1以上(○)（H29年3.1） ・授業アンケートで「授業を受けて、知識や技能が身についた」3.1以上(○)（H29年3.2） ・学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を80%以上(○)（H29年 84.5%） ・教員のICT活用者を全教員の60%以上(△)（57.4%）
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改革PTによる年間計画策定（4月） ・ICT活用の授業実践（通年）、教科ごとの授業研究（～7月） ・教職員相互の授業見学（6月・10月） ・授業アンケート及び学校教育自己診断で効果検証（9月、1月） ・PT及び各教科による本年度総括と次年度の計画案検討（2月）これらの事業を実施し以下の項目について指標を設ける。 ・国公立大学及び関関同立延べ合格者数 生徒数の40%以上（160名以上）（H29年138名） ・センター試験にチャレンジする生徒数 生徒数の60%以上（240名以上）（H29年234名） ・第1希望の進路目標を達成できた生徒の割合80%以上（H29年75.4%） ・授業アンケートで「授業に興味・関心を持つことができた」 3.2以上（H29年3.1） ・授業アンケートで「授業を受けて、知識や技能が身についた」3.2以上（H29年3.2） ・学校教育自己診断で「学習環境に満足している」という生徒の満足度を85%以上（H29年84.5%） ・教員のICT活用者の割合60%以上（57.4%）